

令和2年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれが信頼される社会人としての基本を身につけている学校 ・個々の生徒の実践力と学力を両立させる学校 ・生徒の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒 ・専門的で特色のある学習活動を通して、高い創造力や国際感覚を身につけ、地域やグローバル社会に貢献できる生徒 ・多文化共生の精神を持ち、自他共に認め合いながら互いの命や人権を尊重できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員 ・学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員 ・豊かな人権感覚を持ち、命の大切さを様々な学習活動の場で生徒に教え導くことのできる教職員 ・新たな取組に積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 わかりやすい授業と進路実現を期待している。</p> <p>〈保護者〉 専門性の高い教科指導や個に応じた進路指導を期待している。</p> <p>〈地域〉 デザインや英語力を活かした活動など、高校生の社会貢献を期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 学力向上と礼儀やマナーを身につけさせる。</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒を受け入れる。</p> <p>〈地域〉 学力、コミュニケーション力を向上させる。</p>	<p>〈保護者〉 学校教育への理解と学校活動に対して積極的に協力する。</p> <p>〈中学校〉 学校生活に適応できる生徒を育てる。</p> <p>〈地域〉 企業等が卒業生を積極的に受け入れる。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○ファッションショーなどについて、高校生でここまでできることは凄いことだと感じた。</p> <p>○授業中、教室の中に自由な風が流れている。生徒が好きでやっていることがよく分かる。</p> <p>○卒業制作展は津だけで行うことはもったいない。</p> <p>○文化祭を観覧して、生徒は楽しく、教員も参加して信頼関係があることがよく分かった。</p> <p>○飯野高校のような外国籍生徒が多い学校において大学入試センター試験の得点を上げるためには、英語力だけではなく日本語力も必要である。</p> <p>○奨学金に関する通知について、書かれている言葉が難しい。外国籍生徒の保護者に分かりやすい文章が必要である。</p> <p>○入学金などの振込方法が分からない場合があるのでフォローが必要。</p> <p>○定時制が実施している「朝食の摂取状況」調査を全日制も行ってほしい。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>【現状】 両科とも特色のある専門性の高い取組を通して、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚いものがある。</p> <p>【課題】 高い学力を擁する生徒から、日本語の習得に課題がある生徒まで学力幅が広く、学力層や個々の状況に応じた学習指導を組織的に取り組む必要がある。また、特別な支援が必要な生徒や生活習慣及びマナー指導、CLD生徒に対する日本文化に対する理解の促進など、指導体制の充実が必要となっている。</p>
	学校運営等	<p>【現状】 進路指導やキャリア教育の推進を図るよう組織を強化し、基礎学力向上等に関して学校全体で組織的に指導にあたる態勢が確立しつつある。</p> <p>【課題】 基本的な生活習慣の確立と集団生活の中で自己管理ができるようになるための生徒指導体制の確立が必要となっている。また、特別な支援が必要な生徒や、日本語の習得に課題がある生徒などに対する支援体制をさらに拡充させることが必要となっている。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間を見据えた系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進と構築を行う。 ・ 「総合的な探究の時間」等を通して、探究活動を推進し探究心や基礎学力、考える力を育成する。 ・ 基本的な生活習慣やマナー指導を徹底し、生徒指導の充実を図る。 ・ CLD生徒支援教育の充実を図り、日本語指導教育を一層推進する。 ・ 人権感覚を醸成し、多文化共生や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力の向上を目指し、授業の改善と教職員の指導力向上を図る。 ・ 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る。 ・ 学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う。 ・ 地域の人々と協力・連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する。 ・ 教職員及び生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する。 ・ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や職場の環境整備に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の推進	<p>(1) 進路意識向上のための取組 【活動指標】進路に関わるガイダンス、講話、探究的な学習等全校で5回以上</p> <p>(2) 進路希望実現のための取組 【活動指標】1、2年生の基礎力診断テストを年間2回 2、3年生の大学・短大進学希望者に模試を積極的に推進する。 「我究」を年間15回以上 【成果指標】進学希望者の進路決定率70%以上 学校斡旋の1次試験による合格率90%以上</p>	<p>(1) 進路指導部主催ガイダンス等9回実施</p> <p>(2) 進路指導部課外「我究」21回実施 進学決定率71% 就職1次合格率74%</p>	◎
CLD生徒支援教育の充実	<p>(1) 日本語能力の向上 【活動指標】日本語能力試験の受験促進 【成果指標】第1言語が日本語ではない生徒のN3以上の合格率60%</p> <p>(2) 奨学金の申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 【活動指標】説明会・申請手続き指導を年間2回以上 【成果指標】授業料滞納者数0人(令和元年度1人)</p>	<p>(1) 第1回目は今年度中止 第2回目1人受験</p> <p>(2) 奨学金説明会5回実施 授業料滞納者2年生2人</p>	
生徒指導の充実	<p>(1) いじめの早期発見と対応 【活動指標】学期に1回の面談と、事前アンケートの実施</p> <p>(2) 身だしなみの指導と、規範意識の醸成 【活動指標】服装頭髪指導を年間6回 【成果指標】イエローカード発行枚数600枚以下(令和元年度689枚)</p>	<p>(1) 生徒面談2回実施。</p> <p>(2) 服装頭髪指導6回実施 イエローカード発行枚数507枚</p>	※
人権、多文化共生、命の大切さについての学びの充実	<p>(1) 人権についての理解と知識を深め、互いを尊重する意欲と態度を育むための人権学習の実施 【活動指標】年間5回以上</p> <p>(2) 人権学習や人権に関する取組等の発信 【活動指標】「人権だより」の発行を年間2回以上</p> <p>(3) 教員の人権に関する研修等の実施 【活動指標】教職員研修またはフィールドワークを年間1回以上 教職員向け「人権だより」の発行を年間2回以上 【成果指標】人権に対する意識や理解の深まりを感じた教職員数60%以上</p>	<p>(1) 人権学習12回実施</p> <p>(2) 「人権だより」9回発行</p> <p>(3) 教職員研修1回実施 教員向け「人権だより」2回発行 人権に対する意識向上70%</p>	◎
学習習慣及び生活習慣の充実	<p>(1) 学習習慣の定着 【活動指標】補習や宿題等を定期的実施 【成果指標】学習習慣が身についたと感じている生徒の割合65%以上</p> <p>(2) 生活習慣の確立 【活動指標】家庭への啓発と生活アンケートの実施 【成果指標】朝食をとる生徒の割合70%以上</p>	<p>(1) 応デ科 1年52% 2年34% 3年40% 英コミ科 1年78% 2年75% 3年76% 全校平均 59.2%</p> <p>(2) アンケート7月実施 朝食をとる生徒 79%</p>	

改善課題

- ・応用デザイン科生徒は学習習慣が身についたと感じている割合が低いため、早急に分析し、定着できるようにする。
- ・就職試験で合格するため、生徒に基礎学力をつける必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善を図るための教職員の指導力向上	<p>(1) 異教科の教員2～3人でチーム編成し、相互に授業を見学する。指摘し合うことで授業力向上を図る。 【活動指標】授業見学を年間2回以上</p> <p>(2) 授業改善に向けた教職員の授業研修会の実施 【活動指標】授業研修会を年間1回以上</p>	<p>(1) 9月～10月実施 3～4名でチーム編成し、相互に授業見学</p> <p>(2) 研修会は実施しなかったが、見学後、振り返りシートを記入し、意識を高め指導力向上に努めた。</p>	◎
応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流授業、学校行事、卒業制作展、英語表現演習発表会等で交流をする。 【活動指標】交流会を年間3回以上</p>	<p>(1) 3年生英コミ生徒が卒業制作展を鑑賞した。対策をしたうえで全校生徒が英語表現演習発表会を見学した。</p>	
地域への貢献活動と情報発信	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 【活動指標】地域の清掃など貢献活動の実施 【成果指標】生徒が参加する行事を年間2回以上</p> <p>(2) 積極的な学校紹介 【活動指標】中学校訪問を20回以上 市内、近隣教育委員会主催の学校紹介へ複数名の教職員や生徒で参加 【成果指標】志願者数が前年度(応デ前期91名、英コミ前期73名、後期35名)以上</p>	<p>(1) 今年度はコロナ禍で行事等に参加することができなかった。</p> <p>(2) 中学校訪問のべ60校 志願者数 応デ前期96名 英コミ前期86名</p>	
教職員や生徒、保護者への情報提供、情報発信	<p>(1) 生徒、保護者の学校に対するニーズや信頼度等を把握するためのアンケートの実施 【活動指標】アンケートを年間1回(12月実施) 【成果指標】保護者の学校に対する信頼度80%以上</p> <p>(2) 生徒、保護者への携帯メール(マチコミメール)による情報提供 【活動指標】マチコミメールを年間20件以上</p> <p>(3) HP、たより等による情報発信 【活動指標】HPの到着情報を年間20件以上 「保健だより」を年間3回以上配布 「図書だより」を年間10回以上配布</p>	<p>(1) 応デ科 1年91% 2年89% 3年87% 英コミ科 1年87% 2年79% 3年91% 全校平均 87.3%</p> <p>(2) マチコミメール 63回送信</p> <p>(3) HP48回更新 「保健だより」 年間7回配布</p>	※

		「図書だより」年間 11回配布	
職員の総勤務時間の短縮及び職場環境の整備	<p>(1) 総勤務時間の縮減</p> <p>【活動指標】設定した日(年間12日)の定時に退校できた職員の割合70%以上 予定通り休養日(週1回以上)を実施できた部活動の割合100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合70%以上 夏季休業中の学校閉校日を4日</p> <p>【成果指標】1人当たりの平均時間外労働24時間以下 年360時間を超える時間外労働数0人 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 1人当たりの年間休暇取得日数18日以上</p> <p>(2) 安心・安全な職場環境づくり</p> <p>【活動指標】「信頼される学校であるための行動計画」の周知徹底</p>	<p>(1)</p> <p>定時退校 65% 部活動休養日 100% 放課後会議 70% 学校閉校日 4日 360時間を超える職員 8名 休暇取得日数 15.2日</p> <p>(2)職員会議、PTA役員会等で周知徹底</p>	◎
改善課題			
・職員の総勤務時間では、定時退校日に退校できる割合が低く、また時間外労働が年間360時間を超える職員がおり、勤務体制など改善の必要性がある。			

5 学校関係者評価

<p>応用デザイン科</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業制作展、ファッションショーは個性的でレベルの高い作品を制作することができている。 先生方の協力、友人から影響を受け素晴らしい教育を受けることができている。 生徒の学習習慣に関して着目し、分析する必要がある。 <p>英語コミュニケーション科</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語表現演習発表では様々なテーマでスピーチし、素晴らしいステージ発表であった。 広くPRする方法を検討してみてもどうか。 <p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯野高校は個性をもった生徒集団であり、個人の能力を将来に生かせることができる。 在校生から中学生に向けて飯野高校のよさを発信する機会を増やすとよい。 人権教育、中でも多文化共生教育に力を入れているのが数字で表れている。 保護者の信頼度、満足度が高く、地域の中学校生徒数が減少する中で、志願者を維持している。

6 次年度に向けた改善策

<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等、生徒の活躍を地域に広く発信し、より多くの方に本校の教育活動を理解していただける工夫をする。 基礎学力の向上を目指すため、授業改善を行い、わかる授業をよりすすめ、家庭学習の習慣が定着する仕組みをつくる。 多様な文化をもつ生徒、保護者への理解を深め、さらに人権教育を推進していく。 教職員が生徒のための教育活動を実践し、地域の中学校、中学生から「選ばれる学校」「希望する学校」にしていく。
